函館市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）評価検討報告書（概要版）

1　削減目標見直しの検討理由

函館市の削減目標は，国が新たな地球温暖化対策に係る基本方針を打ち出した場合，見直しを検討することを留保したうえで，設定されています。

国では，2013（平成 25）年の COP19 において，従来の削減目標である『2020 年度に 1990 年度比 25%削減』を撤回し，新たな目標として『2020 年度に 2005 年度比 3.8%削減』を表明，2015（平成 27）年の COP21 においては，日本の約束草案として『2030 年度に 2013 年度比 26%削減』を表明しました。

このことから，函館市の削減目標の見直しについて，検討が必要となったものです。

2　評価検討組織および会議開催経過

(1) 評価検討組織：「函館市地球温暖化対策地域推進協議会　実行計画評価検討部会」

(2) 会議開催経過：第 1 回部会　平成 28 年 6 月 1 日，第 2 回部会　平成 28 年 7 月 27 日

3　温室効果ガス排出量の将来推計

今後新たなエネルギー技術等が導入されず，機器効率が一定のまま推移することを前提とした現状趨勢シナリオと，原子力発電所稼働の影響を考慮した排出係数改善シナリオについて，温室効果ガス排出量を将来推計した結果を図 1 に示します。

また，シナリオ別の削減目標の達成見込についてまとめた結果を表 1 に示します。

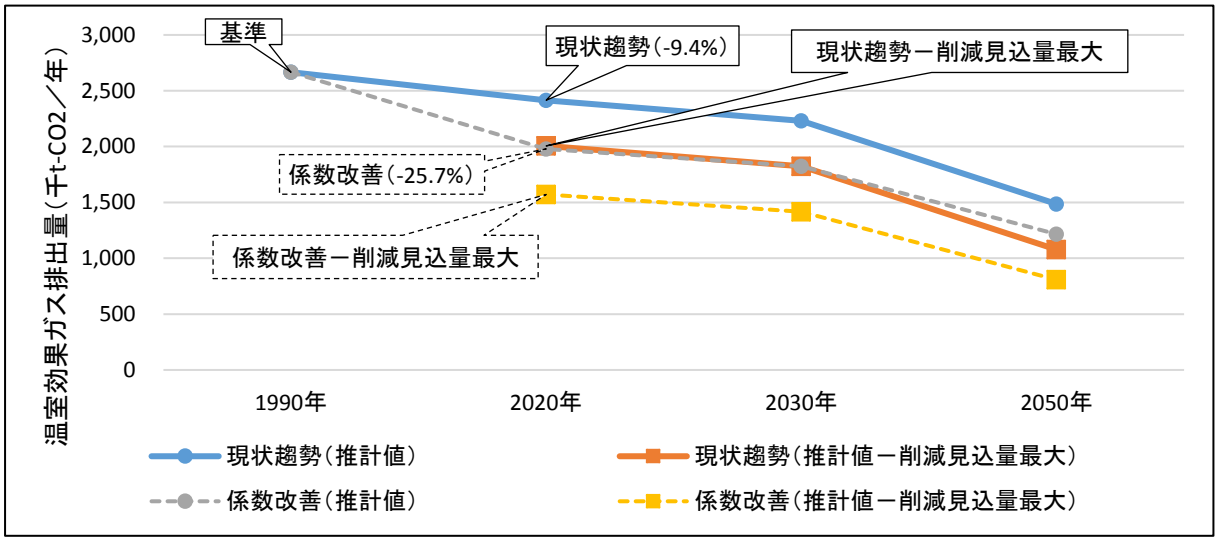

図 1　温室効果ガス排出量の将来推計

表 1　シナリオ別削減目標達成見込

シナリオ区分	2020（平成 32）年度排出量	基準年比	中期目標	目標達成
現状趨勢シナリオ［図 1：水色の線］	2,414,815t-CO2／年	−9.4%	−25%	×
削減見込量最大［図 1：赤色の線］	2,006,466t-CO2／年	−24.7%		○
排出係数改善シナリオ［図 1：灰色の点線］	1,979,703t-CO2／年	−25.7%		○
削減見込量最大［図 1：黄色の点線］	1,571,354t-CO2／年	−41.1%		○

4　温室効果ガス排出状況とこれまでの取組に関する評価結果

(1) 温室効果ガス排出状況に関する評価

2012（平成 24）年度の短期目標（基準年比△15%）は未達成となったものの，電力などのエネルギー使用量は，順調に削減が進んでおり，温暖化対策の効果は，発揮されていると評価できます。

また，温室効果ガスの将来推計の結果，４つのシナリオのうち３つのシナリオで，2020（平成 32）年度の中期目標（基準年比△25%）を達成できる可能性が高いことから，引き続き計画を推進し，電力などのエネルギー使用量を着実に削減することが重要と考えます。

(2) これまでの取組に関する評価

計画策定時に想定していた推進体制が，函館市地球温暖化対策地域推進協議会の設置により確立され，市民等との温室効果ガス削減のための具体的対策に，連携して取り組んだことから，市民の地球温暖化に関する意識向上や省エネ行動の取組の増加など，着実に成果が得られていると評価できます。

5　温室効果ガスの削減目標見直しに向けた検討結果

(1) 計画の基本的事項について

計画期間内において，基準年等の基本的事項を変更することは，これまでの実績との比較が困難となるなど，計画の的確な進行管理を図るうえで，支障と考えられることから，すべての事項について変更しないことが妥当と判断とします。（表 2）

表 2　計画の基本的事項

項　　目	現　　行	検討結果
基 準 年	二酸化炭素，メタン，一酸化二窒素：1990 年 ﾊｲﾄﾞﾛﾌﾙｵﾛｶｰﾎﾞﾝ，ﾊﾟｰﾌﾙｵﾛｶｰﾎﾞﾝ，六フッ化硫黄：1995 年	変更なし
目 標 年	中期目標：2020（平成 32）年度 長期目標：2050（平成 62）年度	変更なし
計画期間	2020（平成 32）年度まで	変更なし

(2) 削減目標について

国や函館市の「将来人口の推計」などをもとに，改めて函館市の温室効果ガス排出量を将来推計した結果，４つのシナリオのうち３つのシナリオで，2020（平成 32）年度の中期目標（基準年比△25%）を達成できる可能性が高いと考えられることから，削減目標は変更しないことが妥当と判断します。（表 3）

表 3　削減目標

目標年	現　　行	検討結果
中期目標：2020（平成 32）年度	基準年比－25% ※	変更なし
長期目標：2050（平成 62）年度	基準年比－80%	変更なし

※国の削減目標「2030 年度に 2013 年度比△26%」を 1990 年比に置き換えた場合，「2030 年度に△18%」であることから，函館市の削減目標は，国よりも 10 年早く，かつ国の目標水準を 7 ポイント上回る。